

平成26年9月24日
東日本高速道路株式会社

常磐自動車道 浪江IC～南相馬IC間・相馬IC～山元IC間の開通について

NEXCO東日本(東京都千代田区)は、常磐自動車道 浪江インターチェンジ(IC)～南相馬IC間及び相馬IC～山元IC間について、開通する運びとなりましたので、お知らせします。

残る工事中の区間につきましても、平成27年のゴールデンウィーク前までの開通を目指し、一日も早く全線開通できるよう、全力で取り組んでまいります。

■開通区間および開通日

1. 開通区間 常磐自動車道 浪江IC～南相馬IC (延長18.4km)
常磐自動車道 相馬IC～山元IC (延長23.3km)
(合計延長41.7km)

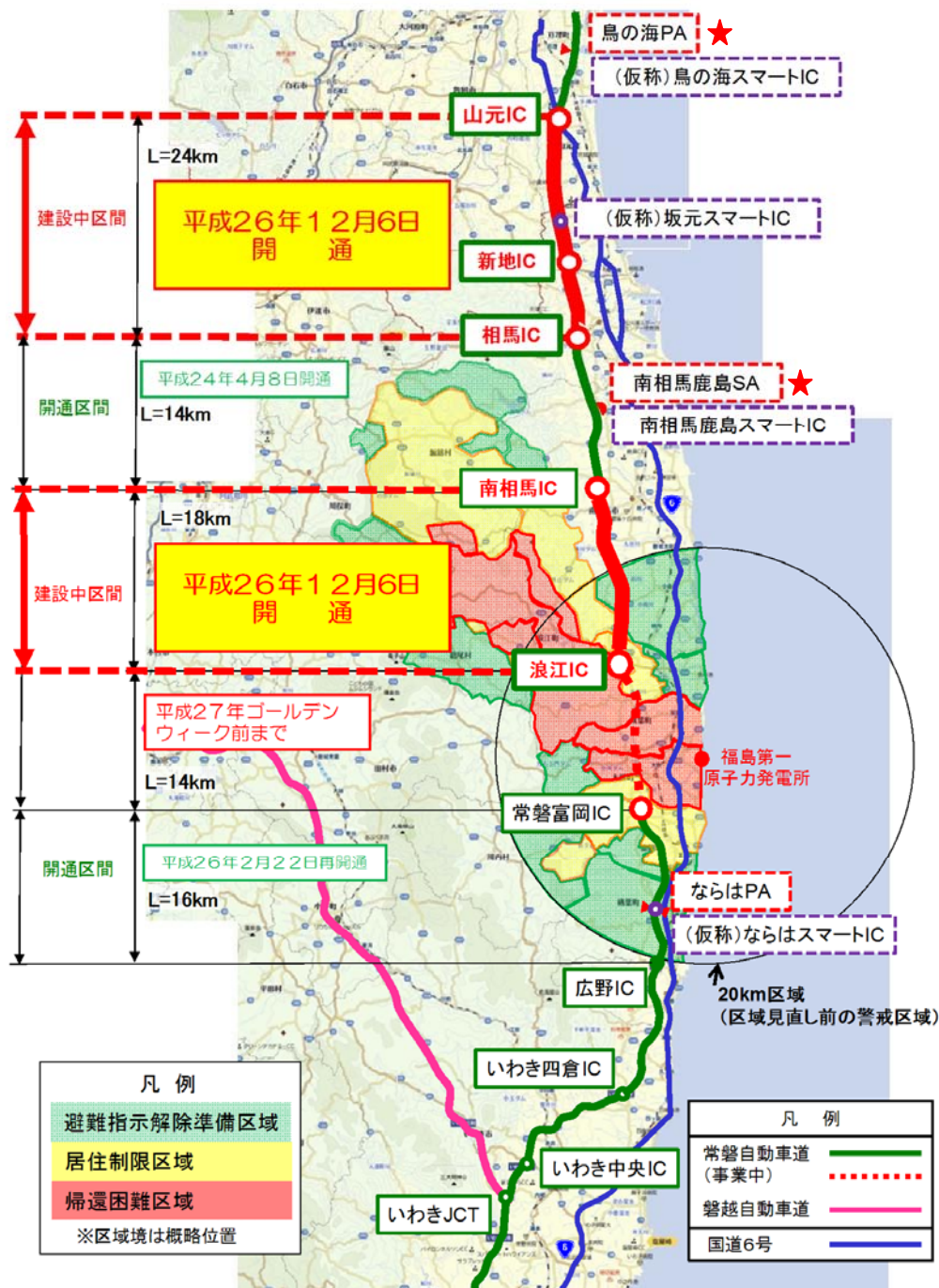
2. 開 通 日 平成26年12月6日(土)

3. 今後の予定

開通セレモニー、報道関係者様への開通前の現場公開などの詳細につきましては改めてお知らせします。

また、常磐道に建設中のサービスエリア・パーキングエリアの開業日につきましても、改めてお知らせします。

常磐自動車道 位置図



※図中の延長は、端数処理の関係により合わない場合がある。

★印のSA・PAの開業予定については、改めてお知らせします。

【今回新たに設置するインターチェンジの所在地】

浪江IC: 福島県双葉郡浪江町室原字八龍内

新地IC: 福島県相馬郡新地町駒ヶ嶺字赤柴

今回開通区間の状況



なみえ
浪江IC



しんち
新地IC



やまもと
山元IC

浪江 I C～南相馬 I C の主な被災状況と復旧状況

■盛土の復旧（写真：浪江IC付近）

損傷状況(平成23年3月)



復旧状況(平成26年8月)



■補強土壁の復旧（写真：浪江ICから南相馬IC方向へ約5.3km 地点）

損傷状況(平成23年3月)



復旧状況(平成25年1月)



着実な開通への取り組み

■震災復旧事業等との競合



物資輸送で混雑する山元IC付近（県道角田山下線）

東日本大震災以降、東北地方の被災3県においては、震災復旧及び震災復興事業が進められました。

そのため、常磐道の建設を行う福島県・宮城県沿岸部において、海岸部の防潮堤事業・道路復旧事業等、震災復旧事業の工事用車両が国道6号や県道に集中し、渋滞が発生しています。

常磐道の建設にあたり、本線内工事用道路を積極的使用することや、他の事業者と調整し渋滞の緩和を図るとともに、工程の確保に努めました。

■資機材の確保



ストックヤード(相馬港)

震災復旧・復興事業により、多くの資材が必要となっています。そのため、常磐道の整備工事で使用するコンクリート・舗装用砕石等の調達が困難となりました。

舗装用砕石については、静岡県や三重県から船舶により運搬し、相馬港にストックヤードを設けて必要な資材を確保しました。

また、沿線住民の方に舗装用材料の運搬時間の延長について協議し了解をえられたことから、通常より長い作業時間を確保しました。

コンクリートについては、あらかじめ施工日を生コン工場と調整し出荷日を決めることで確実な進捗を図りました。また、生コン運搬車も不足していることから常磐道整備工事専用生コン車を手配し、供給体制を確保しました。

開通による効果

■ 移動時間が短縮されます

浪江町から、仙台市まで約 21 分、福島市まで約 13 分短縮されます。

相馬市から、仙台市まで約 7 分短縮されます。



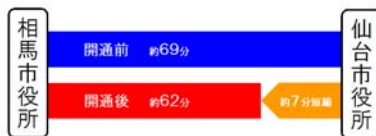
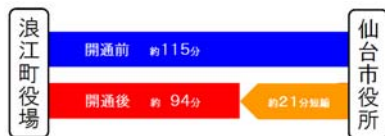
← R6—山元IC—常磐道—仙台南部道路—長町IC—R4
→ R114—浪江IC—常磐道—仙台南部道路—長町IC—R4



← R6—山元IC—常磐道—仙台南部道路—長町IC—R4
→ R115—相馬IC—常磐道—仙台南部道路—長町IC—R4



← R6—南相馬IC—常磐道—相馬IC—R115
→ R114—浪江IC—常磐道—相馬IC—R115



※移動時間の算出方法：一般道はルート検索ソフトによる検索結果(平日 12 時出発で算出)。

高速道路は規制速度で走行した場合の移動時間の合算。

■ 全線開通後は、経路選択の幅が広がります

仙台～東京間で、東北道とのダブルネットワークが形成され、
事故・災害時・降雪時の代替ルートが確保されます。

<東北道とのダブルネットワーク化(全線開通後)>

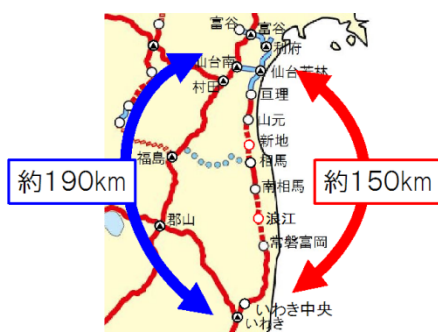


- ① 首都圏と東北道との距離はほぼ等距離
- ② 東北道、磐越道、北関東道とともにラダー型ダブルネットワークを形成
- ③ 常磐道は東北道と比べ降雪が少なく、冬期間の安定的な交通確保が可能
- ④ 東北道の事故・災害・異常気象発生時には、磐越道とともに代替ルートを確保

<拠点都市間のアクセス向上(全線開通後)>

仙台市(仙台宮城 IC、仙台東 IC)～いわき市(いわき中央 IC)の移動距離の短縮

- 東北自動車道＋磐越自動車道経由 移動距離：約190km、移動時間：約127分
- 常磐自動車道＋国道6号(常磐富岡 IC～浪江 IC 間) 移動距離：約155km、移動時間：約139分
- 常磐自動車道全線開通時 移動距離：約145km、移動時間：約120分



※移動時間の算出方法：常磐富岡 IC～浪江 IC 間の一般道はルート検索ソフトによる検索結果、高速道路は規制速度で走行した場合の移動時間の合算

【住民の皆様の期待の声】

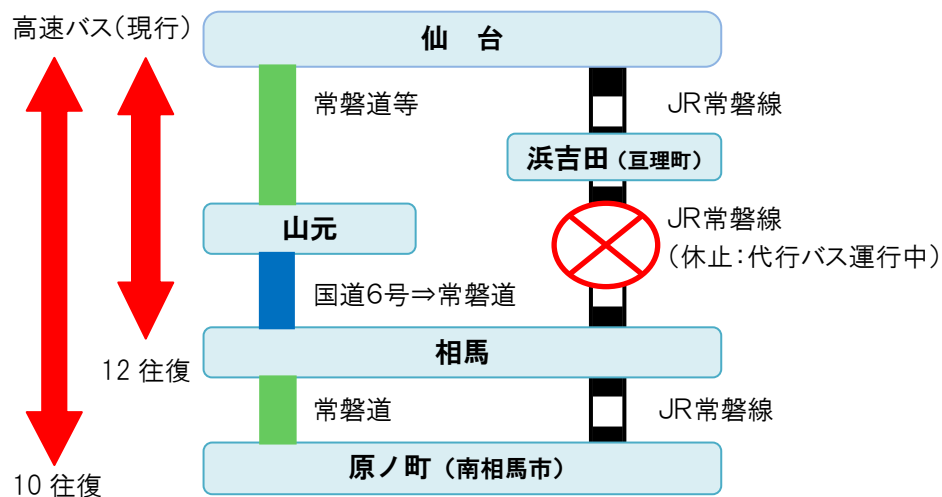
「いわき・東京へも一日も早くつなげてほしい」
「開通により、復興が加速されることに期待する」

■ 高速バスの利便性が向上します

高速バスの速度向上が見込まれることで、震災により一部区間で
休止中のＪＲ常磐線を補完し、交流が活発化されます。

■ 高速バスの利便性向上

東日本大震災の影響により、ＪＲ常磐線の一部区間が不通となっており、仙台⇄相馬・南相馬間の高速バスが代替機能を果たしているが、常磐道相馬ＩＣ～山元ＩＣ間の開通により、高速バスの速度向上が見込まれるほか、福島県浜通りと仙台都市圏との交流が活発化することで、今後、高速バスの増便など、更なる利便性向上が期待されている。



<高速バス(平成26年9月現在)>

- ・仙台～相馬 :12往復/日 約1時間28分
- ・仙台～原ノ町(南相馬):10往復/日 約2時間 5分

<JR常磐線(浜吉田～相馬間の代行バス含む)>

- ・仙台～相馬 :26往復/日 約1時間45分
- ・仙台～原ノ町(南相馬):14往復/日 約2時間 5分

【住民の皆様の期待の声】

「移動が便利になり、復興へ大きく貢献する。」

■ 観光が活性化します

常磐道の開通により、観光やスポーツ交流などが盛んになることが期待されます。



相馬・南相馬地域で行われる「相馬野馬追」には毎年、観光客に人気のお祭りです。

松川浦などの観光名所やサッカー場など、今後多くの方が訪れることが期待されています。



相馬野馬追



松川浦



相馬市サッカー場

【住民の皆様の期待の声】

「お祭りや観光など、長期で泊りに来てほしい」

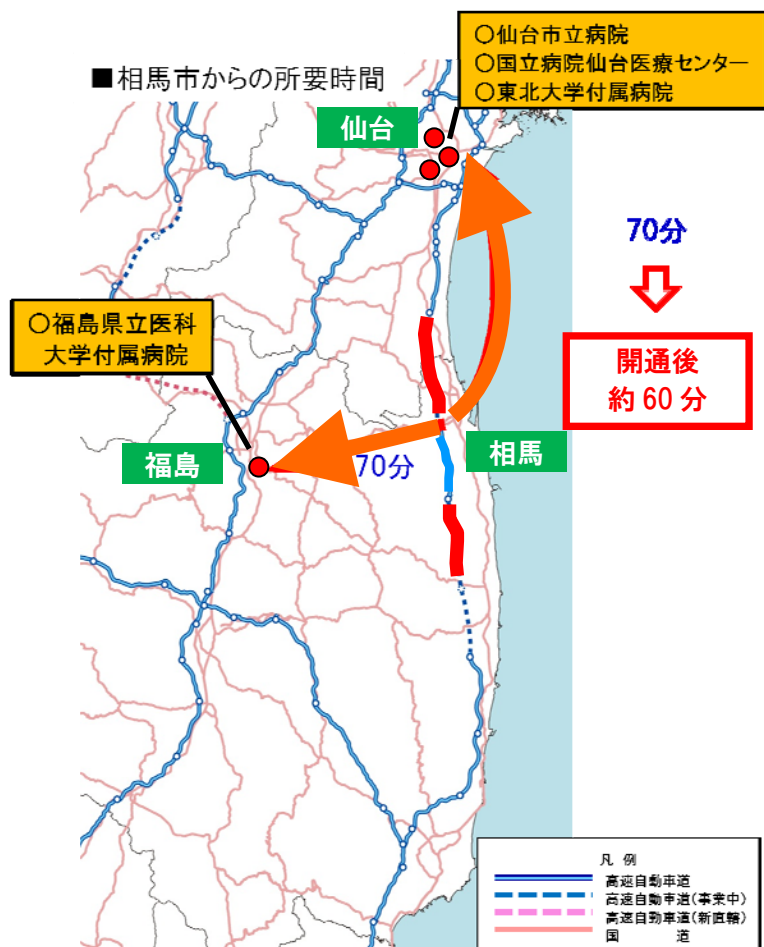
「常磐道が開通して、松川浦の観光・釣り等レジャーが以前のようになればいいと期待している。」

「開通すれば、サッカーの大会や合宿など、スポーツ交流が増えることが期待される。」

■ 救命救急に貢献します

常磐道の開通により、救急搬送のスピードアップが図られ、

救命率が上がります。



常磐道の整備により多量出血による救命率の限界と言われる三次救急医療施設60分圏域が広がるとともに、搬送時間が短縮されます。



【地元消防の声（相馬）】

「これまでも相馬から仙台へ救急搬送していたが、搬送が速くなるので、常磐道を更に活用する。」

【住民の皆様への期待の声】

「仙台の病院に行くのが楽になるので助かる。」

重症外傷では、受傷から決定的治療 (definitive treatment: 手術や止血剤など) を開始するまでの時間が1時間を超えるか否かによって生死が分かれると報告され、この最初の1時間をgolden hour (ゴールデンアワー) と呼び、外傷患者の治療上重要視されています。(JPTC協議会による定義)